

第5回市議会定例会

詳細 議会事務局 ☎ 32-6785

平成24年度予算総額 1,285億4,527万4千円が可決

(一般会計予算は745億9,300万円、特別・企業会計
予算の総額は539億5,227万4千円)

第5回市議会定例会は2月24日(金)から3月16日(金)まで開かれ、報告7件、陳情4件、議案52件、意見書5件などの審議が行われ、「平成24年度各会計予算案」などが可決されました。

「財政健全化」、「行政改革」、「市民自治の推進」の基本政策を掲げ、今年度の重点施策「企業誘致」、「景気・雇用対策」、「053大作戦」ステージ3、「CAP(まちなか再生総合プロジェクト)」、「災害に備えたまちづくり」、「福祉」、「学校教育」、「文化」、「苦小牧中央インターチェンジ」と総合計画の5つのまちづくりの目標に沿って今年度の主要施策を掲げた市長の市政方針及び、教育長の教育行政執行方針に対し、5党派5人の議員が代表質問に立ち、震災瓦れきの受け入れ、財政健全化と行政改革、景気・雇用対策、入札最低制限価格、職員配置適正化方針、指定管理者制度、まちなか再生総合プロジェクトなどについて論議が行われました。

また、各常任委員会・特別委員会では陳情の審査のほか、自動車運送事業の廃止に伴う会計状況、指定管理者モニタリング制度の見直し、第3期障害基本計画、美術館基本計画、日新団地建替事業検討委員会の経過、新千歳空港の24時間運用に関する地域協議会、津波関連対策の対応経過などについて質疑が行われました。今定例会で審議された主な内容と結果は次のとおりです。

◆ 報告

閉会中の厚生委員会で審議されたごみ収集有料化のための「廃棄物の処理及び清掃に関する条例」の一部改正について、原案可決とした審査結果が報告どおり決定されました。

消防費で緊急デジタル無線整備費を増額する平成23年度一般会計補正予算の専決処分報告が承認され、市有自動車による物損事故2件の賠償額の決定についての報告が行われました。また、教育長から「市内中学校事務職員による金銭着服について」の行政報告が行われました。

さらに厚生委員会に付託された陳情2件と文教経済委員会に付託された陳情1件の審査結果が報告され、報告どおり決定されました。

◆ 議案

(苦小牧市固定資産評価審査委員会委員の選任)
任期満了に伴う固定資産評価審査委員会委員

員の選任について、上田宣政氏、谷岡裕司氏の再任と新たに岡聖子氏の選任に同意しました。

(平成23年度補正予算案及び関連議案)

23年度補正予算案は、一般会計が未執行予算額の調整などで29億8千601万7千円の減額、債務負担行為の追加で、早期発注による景気浮揚対策のための舗装新設工事など2億6千13万7千円などが可決されました。また、特別会計・企業会計では、市立病院の出張医と嘱託看護師の増員による給与費の増や土地造成事業での宅地売却に伴う営業費用の増及び未執行予算額の調整などで9億7千210万5千円の減額、債務負担行為の追加で、早期発注による景気浮揚対策のための水道、下水道事業での建設改良費が原案どおり可決されました。

また、関連議案として樽前山火山砂防事業のため樽前放牧場の一部を国へ譲渡するため「土地の譲渡」と「牧野管理規程の一部改正」についても、原案どおり可決されました。

(平成24年度予算案及び関連議案)

24年度予算案は、一般会計及び企業会計予算審査特別委員会に審査が付託され、一般会計は賛成多数で、企業会計は11会計全て全会一致で、いずれも委員長報告どおり原案可決されました。また、一般会計には、敬老会助成金の削減は町内会並びに対象者に丁寧な説明と理解を求めるとの、市立病院事業会計には常勤麻酔医の確保に議会として最大限に協力するとの決議が付されました。これにより、24年度一般会計予算総額は、745億9千300万円、また国民健康保険事業など6特別会計の総額は、33億2千823万1千円、水道事業など5企業会計の総額は、208億2千404万3千円となりました。

また、関連議案として一般会計予算審査特別委員会に審査が付託された職員定数の見直しなどのための「職員定数条例」、給料月額を減額する措置の延長などのための「特別職の職員の給与に関する条例及び教育委員会教育長の給与等に関する条例」、住居手当廃止

市長コラム

勇往邁進

苦小牧市長 岩倉博文

次の世代のための一歩を
先日、リサイクルプラザが苦小牧でオープニングイベントが開催され、053(ゼロごみ)大作戦ステージ3が本格的にスタートしました。私が市長になってすぐに取り組んだ053大作戦ですが、この問題はじっくりとまじぐるみで取り組む必要があると考え、ステージ1、2と「ゼロごみのまち」を目指して事業を進めてまいりました。

ステージ3のオープニングイベントでは、約1千300人の方が来場し、これまでの取り組みで広がった市民のごみ減量やリサイクルへの意識の高まりとともに、ステージ3への期待の大きさを実感しました。
『次の世代のための一歩を踏み出そう』をテーマに、未来の苦小牧を担う子どもたちのため、さらなるごみの減量やリサイクルの推進を図り、循環型社会の構築を目指した家庭ごみの有料化実施に向けた取り組みにチャレンジしてまいります。



一人ひとりでは小さな一歩でも、地域が丸となることで大きな前進となります。子どもたちのため、今できることは何かを常に見つめ、「ゼロごみのまち・苦小牧」の実現を目指してまいります。